

事業報告令和5年度 教育事業 幼児キャンプ～森の中へGo!!～

令和5年9月23日（土）～24日（日）
【対象】年長児
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

豊かな自然の中での遊びを通して、豊かな感性、好奇心、思考力、表現力の基礎を培うとともに、宿泊共同生活の中で基本的な生活習慣の基礎を育む機会とする。

2. 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

3. 活動日程

9月23日（土）		9月24日（日）	
13:00	受付	6:00	起床・身支度
13:30	開会式（会場：天竜）	6:40	朝のおさんぽ
13:45	荷物移動	7:00	朝のつどい
14:00	仲間づくりゲーム	7:20	朝食
14:30	ベッドメイキング・入浴用具用意	8:00	身支度・荷物整理
15:30	自然体験プログラム（葉っぱ占い、アイマスクをして探検、アスレチック遊び）	10:00	調理体験（サンドイッチづくり）
17:00	夕べのつどい	12:30	閉会式（会場：クラフト室）
17:20	夕食	13:00	解散
18:40	入浴・就寝準備		
20:00	就寝		

4. 参加者

年長児20人（男11名/女9名）

5. 企画運営のポイント

- ・自然体験だけでなく生活体験も目的とした事業にすることで、身支度や掃除、調理など、普段は大人にやってもらっていることに自分で取り組んでみる機会とした。
- ・自分が取り組んでみたことが視覚的にわかるように「やってみたよ！カード」を1人1つずつ用意し、布団の用意や身支度準備等の項目に対し、自分の取り組みを参加者自身で振り返れるようにした。
- ・ボランティアにシールを携帯させ、頑張っていると感じる場面があったときには子どもたちへシールを渡せる仕組みを設定し、子どもたちが積極的に活動へ取り組めるようにした。
- ・日中に行う自然体験だけでなく朝の散歩も取り入れることで、朝の静けさやひんやりした空気感を感じたり、朝露に濡れた草木や沢の水に触ってみたり、信州高遠の自然をたっぷり味わえるようにした。

6. 参加者の声（聞き取りアンケート及び保護者アンケートより抜粋）

- ・朝の散歩のときに、丸太橋を渡るのが怖かったけど我慢して頑張った（参加者）
- ・サンドイッチづくりを頑張った（参加者）
- ・初めての、親元を離れての宿泊体験だったので心配もありましたが、「全部すっごく楽しかった！」と言って帰ってきま

した。持ち帰った「やってみたよ！カード」を見ながら、「全部できた！」と色々なことを頑張ってできたことを、にこにこで話してくれて、とても自信になったようでした。（保護者）

- ・調理経験したピンチョスを家でも作ってくれて、皿洗いた事を自慢気に話してくれました。布団を片付けたり、旗を揚げたり、仕事を与えられた事が嬉しかった様で、得意気に話してくれました。（保護者）
- ・まず驚いたのは、普段ものを渡したりしたときには特に何も言わなかったのに、サラッとありがとう。と口から出てきた事です。また、寝具の支度や片付けの経験から、家でも布団を畳んだりすることを進んでやるようになっていました。その後毎日では無いもののやるようになりました。（保護者）

7. 活動の様子

仲間づくりゲーム



ベッドメイキング



自然体験プログラム
(オオバコの葉っぱ占い)



自然体験プログラム
(アイマスクをして探検)



自然体験プログラム
(アスレチックで遊ぶ)



朝のお散歩



お部屋の清掃



調理体験 (サンドイッチづくり)



ご飯の後片付け



8. 成果と課題

(1)保護者アンケート結果 事後アンケート回収 19名 (回収率 95%)

幼児キャンプ全体を通して	満足 : 18名	95%
	やや満足 : 1名	5%
	やや不満 : 0名	0%
	やや不満 : 0名	0%

(2)成果・課題

- 活動プログラムに取り組む姿はもちろん、移動の合間や散歩のときに、変わった形の植物に興味を示して不思議がったり、咲いている花を楽しんだり、きのこを見つけて喜んだりするといった姿がたくさん見られたことから、子どもたちが自然に触れ親しみ、感性、好奇心、思考力、表現力の基礎を培う機会にできた。
- 生活体験では、自分よりも大きな布団を友達と協力して畳んだり、就寝前の身支度を自分でやったりなど、挑戦してやってみようと頑張る姿が見られた。保護者からの事後アンケートからも、子どもに自信がついたように思えるという声があり、子どもの自立につながる成功体験の1つにできた。
- 昨年度の反省を活かし、夜泣き・トイレなど就寝時に起こり得ることの留意点・対応策を事前にまとめておき、ボランティアと共有して臨むことができた。夜泣きする子は数名いたが、ボランティア同士で役割分担し合い、別室で寝かしつけるなど工夫して対応することができた。
- 部屋の中で走り回っていた子ども同士がぶつかって泣いてしまったり、押した・押ししていないといった言い争いがあつたりすることがあった。安全管理をするにあたり、担当者だけでなくスタッフ全体で場面に対しての予測をもち、ケガの予防・トラブルが起きた際の迅速な対応ができる体制づくりを意識していきたい。
- 集合写真を撮って解散となる直前に子ども同士のトラブルがあり、仲直りさせるまでに時間がかかったため、他の参加者・保護者を待たせる結果となってしまった。予防策を検討することは勿論、状況をどのように判断するか、周りへ状況説明を行うことで理解を得るようにするなど、対応策も改善していきたい。

参考「やってみたよ！カード」

